

(91号)

中国シルク情勢 (2018年4月)

日 絹 連

3月15～17日に香港で『2018年中国シルク交易会』が開催された。開催前に『国際シルク情勢交流会』が開催され、各国代表が現状のシルク内外情勢について次の通り発言した。

主催者の中国紡績品進出口商会曹甲昌会長氏が冒頭で「2017年度の中国シルク輸出入額が37.5億ドルで、2016年より21.19%増加し、中国全紡績品輸出入総額の1.28%を占めている」「2018年の春繭上市まで大きな変動はないだろう」と発言した。引き続き、中国シルク総公司湯亜中副総経理は、「2017年の値上げはシルク生産と需要のバランスの変化であり、中国国内需要の増加、販売の改善などに伴う結果」だと述べた。

浙江凱喜雅国際股份有限公司吳金根總裁が、今年に入ってから機屋の稼働率が向上し続けて、国内市場が一般品から高級品へと転換しており、生糸の消費量が既に輸出は40%、国内は60%と逆転している。生糸相場については、20年前はヨーロッパの動向を参考にし、5年前はインドの動向を注目していた。今は中国の内需が下がらなければ生糸相場も下がらないであろうと見通しを述べた。

イタリアのシルク大手ONGETTA(オンジェータ)のアンドレア氏が生糸の値上げと化合織の進化について、今のヨーロッパシルク業界の進退が試練となっている。中国内需は大切であるが、ヨーロッパのマーケットも忘れてはいけない。ヨーロッパがファッションをリードしており、多くのブランドがある。仮に一旦、化合織へ転換してしまうと短期的に中国生糸相場への影響は小さいかもしれないが、高級ブランドの栄光が失われ、シルクの魅力が保たれなくなるのではないかと警戒している。

絹織物産地である湖州協会の凌蘭芳会長が現在のシルク業界について下記の通り述べた。

- ① 川上では、中国農産品生産コストの上昇が、シルク値上げの原因であり、農家は収益の高い農産品しか生産しない。シルクの価格は農家が生産するかどうかにかかっており、年間1畝土地(667平方メートル)から8,000元以上の収益がないと生産しないと言う。今の繭代がシルクを生産できる最低価格である。
- ② 川中では、機屋、染色などの人件費コストが上昇しており、労働者を募集できないことや、生地代と糸値が高騰する話がとてつもなく多く出ているとのこと。
- ③ 川下では、ファッションとブランド、創意と文化をどう展開するかが問題である。
- ④ シルクの市場は、消費者次第であるとのこと。糸値が下がらないので、シルク業界は大変厳しい状況である。

広西省シルク協会の蘭会長が、2017年度は歴史上で一番喜ばしい年である。農家も製糸企業も収益が良かった。生糸生産の2017年実績を2018年は安定させる。2017年に20%の繭が省外より調達されたが、繭減産の原因は色々であり、生産農家が今年は

繭増産なのか減産になるのか動向が気になるところである。また、養蚕業の高齢化も深刻である。

江蘇省玖久シルク有限公司の朱烈氏がシルク増産は、養蚕業の規模により決まることで、ウズベギスタンでの養蚕事業については、大統領と政府が非常に重視している。

また、日本、インド、スイス代表もそれぞれ自国のシルク状況を報告した。翌日からの交易会は賑やかな雰囲気で行われたが、成約のニュース報道はなかった。



2018年中国シルク交易会（香港）の風景写真

15～16日の生糸取引所相場が小幅で値下げした。

3月14～16日、国際的なテキスタイル見本市インターテキスタイル「上海アパレルファブリックス2018春展」が上海の国家会展センターで開催された。22カ国と地区が出展され、10万人以上の来場者で史上最大の規模となった。しかし、浙江理工大学雑誌社の調査では、綿と化合織の商談が非常に活発であり、シルク関連の成約については、目立っていなかった。サンプル受注が多くあり、正式な注文はこれからとのこと。



上海アパレルファブリックス 2018 春展（上海）の風景写真

3月26日の「金蚕網」ネット報道により、広東省西部の雲浮市は今年一番早い春繭を上市した。天気と養蚕が順調で平年と同じ水準となり、価格は50元/キロで収穫されている。(50元/キロ×9キロ+50元/キロ製糸賃=50万元/トンの相場となる)

3月の生糸繭取引所の相場について、特に2018.9.25の先物が少しずつ下がった。現在は48万元/トン前後で動いているが、現物の緯糸が依然52万元/トンで取引されている。良い経糸の現物場外価格は56~57万元/トン(ドルに換算すると約80ドル/キロの価格)であまり変わっていない。4月中旬から広西の春繭は徐々に買い取りが始まっており、どのぐらいの価格になるのか注目しなければならない。

以 上